

(有) 静岡健康企画 ことぶき薬局 TEL055(977)6024 たまち薬局 TEL054(251)1678  
ひまわり薬局 TEL053(463)4312 みかん薬局 TEL053(584)2230 いちご薬局 TEL055(946)6430

## ～謹賀新年～

いつも薬局通信はあもにいを読んでいただき、ありがとうございます。

皆さまにとって、いつでも気軽に相談できる「かかりつけ薬局」として邁進していきたいと思っております。本年もよろしくお願いたします。

代表取締役 竹端尚美

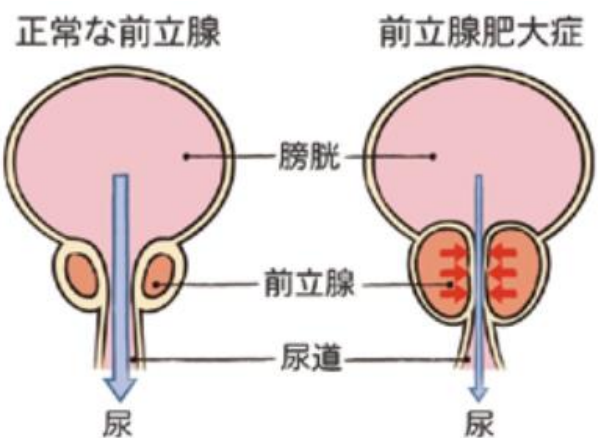
### 下部尿路症状とは？

60歳以上の男性の約8割が何らかの下部尿路症状を有していると言われています。下部尿路症状とは膀胱に尿をためる（蓄尿）、尿を排出する（排尿）行為が円滑にできなくなっている症状のことです。尿を貯めて出すという自然な生理現象が加齢とともに不自然な状態となり、トイレが近い、尿の勢いが弱い、残尿感がある、夜間にトイレに起きるようになった、などの自覚症状があらわれるようになります。

主な原因は前立腺肥大で、その他の原因としては、前立腺癌、膀胱癌、過活動膀胱、尿路感染症、間質性膀胱炎などがあります。下部尿路症状に気づいたら、まずは泌尿器科を受診することをお勧めします。

### 前立腺肥大症とは？

男性では特に尿道を取り巻くように前立腺があり、加齢とともに前立腺が大きくなることによって引き起こされる症状です。栗の実程度の大きさの前立腺が肥大して、卵やみかんの大きさになると例えられます。



### 下部尿路症状の評価は？

国際前立腺症状スコア (IPSS) と QOL スコアを用います。IPSS の合計点により軽症 0-7 点、中等症 8-19 点、重症 20-35 点に分類します。QOL スコアは現在の排尿状態に対する自身の満足度を示す指標で軽症 0-1 点、中等症 2-4 点、重症 5-6 点に区分します。

前立腺肥大症の重症度判定には、IPSS と QOL スコアに加え、最大尿流量と残尿量を用いた機能の評価、前立腺体積を用いた形態の評価の 4 項目を用います。

#### ↳ QOL スコア

現在の排尿の状態がこのまま一生続くとしたらどう感じますか？

大変満足	満足	大体満足	いずれでもない	不満気味	不満	大変不満
0	1	2	3	4	5	6

## 国際前立腺症状スコア (IPSS)

	なし	5回に 1回未満	2回に 1回未満	2回に 1回位	2回に 1回以上	ほとんど いつも
1 過去1ヶ月間、排尿後に尿がまだ残っている感じがありましたか	0	1	2	3	4	5
2 過去1ヶ月間、排尿後2時間以内にもう一度行かねばならないことがありましたか	0	1	2	3	4	5
3 過去1ヶ月間、排尿途中で尿が途切れることがありましたか	0	1	2	3	4	5
4 過去1ヶ月間、排尿をがまんするのがつらいことがありましたか	0	1	2	3	4	5
5 過去2ヶ月間、尿の勢いが弱いことがありましたか	0	1	2	3	4	5
6 過去1ヶ月間、排尿開始時にいきむ必要がありましたか	0	1	2	3	4	5
7 過去1ヶ月間、床に就いてから朝起きるまで通常何回排尿に起きましたか	0回	1回	2回	3回	4回	5回
	0	1	2	3	4	5

前立腺肥大の治療として、まず行われるのは薬物療法です。主な薬物治療は、

### 1) $\alpha$ 1 受容体遮断薬 (タムロシン、ナフトピジル、シロドシンなど)

前立腺肥大症の第一選択薬は  $\alpha$ 1 受容体遮断薬という薬剤です。この薬には前立腺と膀胱頸部に存在する平滑筋の緊張を低下させ、排尿時の尿道抵抗を下げる効果があります。その結果、尿の勢いが良くなり、頻尿症状も改善されます。主な副作用には、起立性低血圧、疲れ易さ、射精障害、鼻づまり、頭痛、眠気などがあります。数種類の  $\alpha$  遮断薬があるので、体質にあった薬を選ぶことができます。

### 2) $5\alpha$ 還元酵素阻害薬 (デュタステリド)

$5\alpha$ 還元酵素による活性型テストステロン (男性ホルモン) の合成を阻害することにより、前立腺の体積を 30%程度縮小させる効果があります。副作用は  $\alpha$  遮断薬ほど多くありません。ゆっくりと効果を示す薬剤ですので、6か月程度継続して内服することをお勧めしています。

### 3) PDE5 阻害薬 (タダラフィル)

前立腺や膀胱や尿道に多く存在して、血管や筋肉を収縮させる働きのある酵素 PDE5 (ホスホジエステラーゼ5) を阻害し、血管を拡張、筋肉を緩めることで、排尿障害を改善します。一部の心血管系疾患合併症の人には服用できません。

### 4) 抗アンドロゲン薬 (クロルマジノンなど)

テストステロンの分泌と前立腺細胞への取り込みを抑えることで前立腺体積を縮小させる効果があります。前立腺肥大の症状は軽減しますが、血中テストステロンの低下に伴い性機能障害の頻度は高くなります。

症状に応じて、他の薬剤や2種類以上の併用療法などがあります。

一定期間薬物療法を続けても症状が改善しない場合や、尿路感染や腎機能障害などの重篤な合併症を生じる場合には手術によって肥大化した前立腺を切除します。また、年齢や健康状態などで手術が行えず、薬物療法にも十分な効果がない場合は、前立腺に圧迫されて狭くなった尿道にステント (筒状の器具) を挿入して拡張させる治療が行われます。